



佐太神社の主神は佐太大神(猿田毘古大神)が祀られ、イザナミ・イザナギの命も祀られている。出雲国二宮、出雲国神仏霊場第4番である。「イザナミの神陵(墓)」は、神社背後の向かって左手の中腹にあり、また神社の東南100mばかりの旧道脇に、改修後の「身澄池」がある。

島根半島 四十二浦巡り

第2号
平成23年
7月10日発行

電子/飯塚大幸一畑薬師管長
写真/「佐太神社」
板垣 宏 撮影



藻汐の祓
朝山 芳 圀

佐太の社に伊弉諾尊(いざなぎのみこと)、伊弉册尊(いざなみのみこと)が合せ祀られたのはいつの頃か詳らかにしないが、伊弉諾尊を祀ったことよって、佐太社縁起や雲陽誌等に誌されてある当社の潔斎場で伊弉諾浜の伝承が生まれたものと思われる。

この伊弉諾浜は秋鹿郡の古浦、江角、手結、片句の四浦と、島根郡の御津、大芦、加賀の三浦を加えて佐太の七浦と言っている中の古浦の浜のことで、今も家に悪穢のあった時に、青竹で筒を作り、この浜で汐(海水)を汲み、ホンダワラ(シンパソウ)を採って、身澄池に詣る。社前を流れる佐太川の東岸にあつて松平不昧公により池畔に碑が建てられた「身澄池」がある。これも伊弉諾尊に関わる伝承地で、ここでミソギを行う習わしであつたので身澄池と云うのであるが、この佐太のミソギの習俗に依るものか、或いはまた佐太神能の七座の清めの舞の神楽歌に「申しおろいて莫塵清むるは、神の社、御山の神、百浦の汐、七浦の汐、再拜再拜」とあつて、この神楽歌は悪穢を祓い清めると共に神の降臨を願う意も含まれていて、多くの浦々で汐を汲むことで、悪穢を祓い清めて神々を迎え、生命力の衰えを再生させると信じる古い習俗があつたのか知れない。

(佐太神社宮司)



【島根半島四十二浦巡りについて】

島根半島に古来伝わる「四十二浦巡り」と呼ばれる海岸(浦)で汐汲みし神社を巡り歩く信仰習俗があります。この四十二浦巡りは、江戸時代盛んに行われていたということですが、いつ、何のために始まったのかは不明です。島根半島巡礼の終点は、一畑薬師とされています。



日時 /平成23年7月31日(日)
午後2時30分～午後4時30分
会場 / マリンゲートしまね
(松江市島根町大芦6120-14)

申し込み・お問い合わせ
研究会事務局(木幡) TEL 090-4572-0641
FAX 0852-21-9942
kowata189@sky.megaegg.ne.jp

基調講演 「鹿島・島根の古代史」講師 関和彦氏(島根県古代文化センター客員研究員)

シンポジウム 「鹿島・島根七浦巡りの魅力を知る」

司会 総合地球環境学研究所研究推進支援員 大谷めぐみ氏

シンポジスト 伊達章氏 八幡等氏
高橋知之氏

**島根半島
四十二浦巡り**
地域ガイド講座(鹿島・島根)

島根半島四十二浦巡りの松江市鹿島町・島根町の各浦々の伝承されている祭礼・史跡、お勧めしたい観光先を地元郷土史家・観光関係者が紹介します。

この度、研究会では、鹿島・島根七浦巡りバスツアーを実施するにあたりガイドブック(マップ付き)を作成することになりました。

七浦巡りをみなさんといっしょに歩ける望外の機会に恵まれ、ガイドブックの取材もあり改めて島根半島を巡り地元の方にもお会いしました。

最近では、地方を見直そう、地域の文化伝承を大事にしようという機運もさらに高まり、テレビ・新聞などで毎日のように世界遺産や古都、神社・仏閣などが取り上げられ嬉しさが溢れています。実は、さらに田舎を歩いてみると、往古きびしい生活をおくる地域の民が厚い信仰をもつて勧請したのにもかわらぬ、現在ではくたびれ廃屋同然となった神社・仏閣も多い事に気づかれました。

一方、今回の取材では改めて島根半島の住民の方々の信仰の厚さ・故郷を大切に思う気持ちの強さを感じる事ができました。四十二浦の神社は今でも多くが大事にされ、社殿はもとより境内もよく清められた神社が多いことに感動を覚え、とても誇りに思えます。またみなさん誰もが歴史好きでいらつしやる。

この様に、田舎ではあつても島根半島のどの神社も地域の歴史をたたえながら人々に愛され、永く静かに座してあります。

みなさんが足を運びになった時、そうした感動にふれて頂けるよう、好きになつて帰つて来た三年間で計六回行われた七浦巡りのガイドブック(マップ付き)を作りたいと思つております。これは古代出雲の歴史研究者で当研究会の研究部長である関和彦氏の監修による古代史から読み解ける浦々の神社の歴史と、その解説、そして交通・観光・宿泊施設の紹介等が載るガイドブックです。このガイドブックを片手に、浦々の人々の思いが伝わる神社の今の姿をぜひご覧になつてくださ

七浦巡りガイドブック刊行によせて

編集後記

広報誌二号は、鹿島・島根七浦巡りを念頭に置き、汐汲み、七浦巡り等に関係する原稿をお寄せ頂きました。鹿島・島根の御津神社から津上神社までの七浦巡りバスツアーをこの七月三十一日に計画しています。各神社では、宮司さんや総代の方々に神社にまつわる祭礼行事等のお話を頂くことにしています。

当日午後には、島根公民館で関座長の基調講演、大谷副座長の司会で、地域に伝わる信仰習俗・お勧めしたい観光地の話をシンポジウム形式で語って頂き、町内外の方々と交えた浦々の古代史と現状を理解する学習の場「地域ガイド講座」を開催します。

しかし、バスツアーの応募者はこの広報誌を発行する頃には定員を超える状況となりました。来年二月十八日に予定している半島西部での第二回バスツアーは、御参加頂くようお願いいたします。

「地域ガイド講座」の講師の皆さんとの打ち合わせの中で、鹿島町では、手結の浦は鳥取因幡藩の勤皇の志士の殉難の地であること、恵曇浦では中国の魯迅と交流のあつた方の話等聞きました。

また、島根町野波では四十九日の法要のあと、神主の他、島根町の石を拾うお話を聞きました。瀬崎浦では汐汲みの際に海岸の石を拾うお話を聞きました。瀬崎浦では頂いた。鹿島町の浦々では夏祭りの夜神楽に佐太神能が奉納されていること、同町片句の太子堂は民俗学者が本常一氏が若い頃訪問し、四十二浦巡りの巡礼者の宿として提供されていた記録があること、古浦では古くは製塩を行っていたこと等、四十二浦周辺の様々な信仰習俗・伝説に触れることができました。

松江市役所鹿島支所、島根公民館他の御理解と協力を頂いたこと厚くお礼申し上げます。(K記)

島根半島四十二浦巡り第2号

発行 平成二十三年七月十日
発行者 島根半島四十二浦巡り再発見研究会
〒六九一〇〇七四 出雲市小境町八〇三 一畑薬師

ホームページ『島根半島四十二浦巡り』 <http://42ura.jp/>